

## 愛を呼ぶ祈り　〜聖地アイルランドにて〜

二〇一六年十二月七日

バイブル・サービス

佐々木　裕　子

皆さんこんにちは。今日はお時間をいただきましてありがとうございます。私には、女の子と男の子の子どもがいて、二人とも大学から海外に出ています。娘はハリリーポッターになりたいと言ってイギリスの大学に行っているので、今日はその話をしたいと思います。下の子はニュージーランドに行っています。

今日は、「大学時代におこななければならないこと」として、私が子どもたちに話したことを三つお話しいたします。私の娘はグラスゴー大学というところに、留学ではなく大学一年生から学部入学として行きました。イギリスはEUの国なので日本人は大学に入ることがなかなか難しく、インターナショナルスクールに行き、それからファンデーションという学部の一年を勉強し、中に学部があり、マスターが一年というセットで六年となっています。EUの国以外の子どもたちは、学費を二倍払わなければなりません。その当時、ポンドが非常に高かったので、私は娘にアメリカの大学を勧めたのですが、娘はどうしてもハリリーポッターの国であるイギリスへ行きたいと言って、お話のような寄宿舎で生活を始めました。そして、九年間滞在して今年帰ってきました。

グラスゴー大学に通っていたときには、娘のことが心配で私も何回かイギリスに行きました。そのときにアイル

愛を呼ぶ祈り　〜聖地アイルランドにて〜

ランドを回りました。アイルランドでは、キリスト教の基本のカトリックとプロテスタントの激しい争いがありますが、それ以前の初期のキリスト教の巡礼地と呼ばれる場所があり、古い遺跡が多くありました。そこで考えたことがありますので、そのことを皆さんにご紹介いたします。

「大学時代におこななければならないこと」として、まずは、「感動・ワクワクしましょー」ということです。皆さんは最近ワクワクしたことがありますか。私は飛行機に乗るとワクワクするので、飛行場に行くときワクワクします。私は日本よりも海外の空気の方が合っていると思うときがあるので、ときどき息が詰まると海外に行きたくなります。海外旅行は金銭的な余裕がないとハードルが高いですが、大学時代に多文化に触れるという意味で、何処の国でも一度は行った方が良いと思います。

私は娘が海外に行くときに書類をたくさん書きました。書類の最後に自分の信仰する宗教を記入する項目があったのですが、何と書いていいのかわからず空欄で提出しました。すると、「クレイジーだ」と言われて返却されました。そして、「宗教がない人は受け入れられない」とハッキリと言われ、何かを信仰していないと留学としては受け入れられないということに驚きました。キリスト教の信者かどうかということが問題ではなく、信仰していることをはっきり書いた方が良いということです。

グラスゴー大学では、人によって食べものから何からそれぞれ違っていて、四足を食べない、ベジタリアン、エキスが入っているても食べないというように、いろいろな方がいます。そのことから、今、皆さんは友達関係や人間関係で悩んでいるかもしれないませんが、世界にはいろいろな人がいるので、「ああ、違う人がいるんだ」と思ったほうが良いと思います。

私がグラスゴーに行って最初に驚いたことは、郵便局や銀行に行くと日本人は後回しにされるということです。

日本人があまりいない町だったので中国人と勘違いされて、「チャイニーズ？」と必ず聞かれました。アジア圏ということではひとくくりにされているので、アジアの人たちが来たという感じがまだまだ強いようです。日本人はロンドンにはたくさん行きますが、グラスゴー、エディンバラへも日本人、もしくはアジアの人たちもつと観光で訪れてお金を使ったら良いのではないかと思いました。

アイルランドに行った際に最初に言われたのは、「祈り」についてです。私はツアーで世界遺産などを観光しました。所々に祈りの拠点があり、そこでは献金をしながら祈りの仕方を習いました。私は祈りのスキルアップをしていかなければならないと感じたので、そのことについて子どもたちにも伝えました。祈りという日本では、お願い事や何かをください、何か叶えてくださいというようなイメージがありますが、そこで習ったことは、たくさんものを持ち過ぎていると祈りが通じないということでした。「自分をもう少し空にしてからおいで」と言われたことがとても印象的でした。その例えとして、「皆さんは思いがいっぱいあると思います。しかし、それでは神様につながらないので、もっと神様が入るスペースを作ってから来なさい」と言われて驚きました。持ち物についてもあまり持たないほうが良いと言われました。イギリスの大学生は、おしゃべりはしなくてジーパンとTシャツで暮らすのでスーツケース一つで歩くそうです。「いつでも身軽に次のところへ行けるようにしておきなさい。荷物をたくさん持っている人ほど願い事が叶わない。シンプルでいることが良い」と言われました。そして、必要な物は与えられるから大丈夫だよと習いました。

「祈る」とはどういうことなのかということですが。先ほど祈りのことをお話しして思っただけですが、罪があるとお願ひ事は通じない。そのためには罪を祓わなければいけないということをお祈りしました。天も地もそうですが、風が吹くことで何かが消えてしまったり、雨が降ることで流してくれたり、余計なものがあるとだめだと最近よく

思います。私は部屋を片付けられない人ですが、部屋はシンプルで良いのです。皆さんもお洋服などをたくさん持っていますか。洋服にしても何か一つ買ったら、一つ捨てなければいけないと思うのです。勉強もいらない知識は捨て、新しい知識を入れて自分の中をリニューアルしていくことがとても大事だと思います。お掃除はとても大事なので、私は今から頑張ってください。何を自分の中でクリーニングしようかと考えています。十二月は日本では大祓いと言って、大掃除や自分の気持ちを祓ったりする時期です。皆さんも今年一年、自分の中にスキマを作って来年、新しい願い事が叶うようにしてください。極端な話ですが、要らない友達も整理した方がいと言われました。嫌々付き合っても良いことがないので、自分と神様がつながっているには、その間に人を入れないというか、神様の前に人がお出ましましてしまうことは良くないと言われました。そのためには祈りのスキルアッブが大事なのです。大学も知識をたくさん入れる、習いたいところではなく、整理をして自分の知識やいろいろなものは捨てて新しいものをもらう場所です。

アイルランドで最後に言われたことは、「何のために祈るのか」と、生まれてきたときに神様と約束したことがある」ということです。私は、「それはわからないし、覚えていません」と言ったのですが、「それを達成するためにその情報を思い出すということが祈るといふことだ」と言われて、納得できたような感じがした。もっと深いところに話があるのかなと思いました。必ずあなたが生まれてきた意味があって、神様と何々をしますと言ってこの世に生まれてきたので、その約束を果たしてくださいということをアイルランドの地で教えていただきました。

その他には、神聖な祈りの場所に出かけなさいということ。帰国後に宮崎先生に教会で聞くお話と学校の授業で聞くお話は全然違うと思うので、一度学生を教会に連れて行ってキリスト教学をしたほうがいいとお話した

ら笑われてしまいました。場所が違うと空気が違います。ヨーロッパの教会はとても空気が違います。何といたたらしいのでしょうか、地上よりも天に近いというような感じですが。本学ではイタリア・フランス研修旅行があります。日本とは違う自分が発見できるので、ぜひ一度はヨーロッパの教会に行ってみてほしいと思います。

いくつか観光の拠点を紹介します。まず、教会に行く前には自分を赦うために、自分はいったい何者なのかと考えるには、観光と言われる名所に行き、瞑想のように自然に触れることが良いそうです。断崖や海、古いお城など、どの場所もとても良かったです。タラの丘というところにはアンティークのお店があり、ネックレスや指輪、古いお皿などが売られていました。私はそこで菊のご紋のネックレスを見つけました。向こうの方たちは日本の菊という花も知らないですし、それは古い時代から伝わっている王家の紋章のようなもので、誰かが日本の文化をヨーロッパに伝えていたということが本当にあるのだと思います。日本とヨーロッパはつながっているとタラの丘で思いました。私はこのネックレスがどうしても欲しくなり買いましたが、大事にしまいすぎて探しても見つからなかったので、またの機会に皆さんにお見せしたいと思います。

その他には国立公園や、グレンダローホという場所には七つの教会があり、石だけで出来た教会があります。本学でいうところの最初に始めた祈りの場所、グラントワーのようなところでした。ダブリンにはトリニティーカレッジというダブリン大学がありますが、その大学の図書館は圧巻でした。そこには『ケルズの書』という世界で一番美しい本と言われる聖書の写本がありました。撮影禁止でしたので写真はありませんが絵葉書などが売られています。その図書館は私の中ではとても印象的で、こういう場所で勉強できたらとてもいいだろうなと思いました。左右の本棚には何千何万という本が高さ四メートルくらい並んでいます。新しい本や、中にはとても古い本もあります。本棚はとても高いので梯子を上って本を取ります。本学の五号館四階の学長室の前からカトリック研究所の

方を見たときの造りは、その図書館とそっくりです。私はその景色がいちばん好きです。見てみたい方は、本学の入試のコマーシャルで、その場面が最初に写りますので是非見てみてください。ハリポッターの映画を観ている人はヨーロッパの図書館のイメージがわかると思いますが、皆さんも一度ああいふ空気に触れたら良いと思います。『ケルズの書』の聖書がともきれいで、私は絶対に聖書を読みたいと感動したので、最後に皆さんにメッセージをお伝えします。冬休みは自分が感動できる場所、自分の思いが捨てられる場所に行きリセットして祈り、神様からの情報をいただいて、自分をワクワクさせましょう。そしてクリスマスや新年を迎えて、また一月にお目にかかれたらと思います。

イタリア・フランス研修旅行は、ぜひ一度は行くべきだと思います。ヨーロッパでキリスト教文化に触れることは、お金では買えない、それ以上の価値あるものが何倍にもなり返ってきます。そういう経験は何よりも財産になると思っています。私自身子どもたちにそうしています。お金でもなく、土地でもなく、残せるものはそういう思いしかありませんから、借金をしてでも行かせたいという魅力があります。祈ったことのないということはクレイジーだと思います。それでいつもちょうだい、ちょうだいと言っても叶うはずがありません。自分が何かを持ちすぎていると願いは叶わないと思います。ですから、誰かを許せないという思いも捨てなければいけません。ただジャッジしてはいけないのです。それは神様が決めることです。そういうことをヨーロッパから学ぶことができます。

(健康栄養学科教授)